



上智大学創立 100周年
 上智短期大学創立 40周年
 上智社会福祉専門学校 50周年



1. 短期大学最大の行事ソフィアジュニア祭

ソフィア・ジュニア祭（以下SJ祭）とは上智短期大学（以下短大）で毎年10月下旬の週末の2日間を使って行われる学生主体の学園行事である。この行事を行うために学生たちは「SJ祭実行委員会」を組織し、その活動は課外活動の一環として学生生活委員会が所管している。SJ祭は、これまで学生祭の側面が強かった。しかしSJ祭のコンセプトを大きく変える改革が起きる。その変化を端的に表現すれば、「正課の授業中心」から「課外活動も本学の教育活動の一環」と考え、課外活動の拡充に努めたことである。この方針転換は、21世紀初頭に短大内に組織された多面的な改革検討委員会の提案に基づくものである。現在では多くの学生が主体的に参加する短大最大の行事と位置づけられる。第34回SJ祭は、“Sparkling magic



多くの学生が参加するSJ祭

for our smiles” というテーマで2011年10月22日と23日に開催される。

2. SJ祭の歴史的経緯

短大の創立は1973年。現在のSJ祭と呼べる学生の祭が短大で初めて開催されたのは1978年「十月祭（かんなさい）」という名称で“A Maiden Voyage”をテーマに10月21日-22日の両日に行われた。「十月祭」は英語科という特色を活か



第一回の学生祭(1978年)



伝統のセビアナスが毎年行われている

して有志やサークルによる英語劇、展示や研究発表が中心であった。プログラムの中に聖マリア寮のシスター、特にスペイン人のシスターが指導して下さる、マリア寮生によるセビアナスの舞踏が、第1回の学生祭から演じられている。現在でもSJ祭でセビアナスを演じる伝統は守られている。1978年当時、SJ祭を文化祭と呼び、大学の先生を招いての講演会や近接の聖マリア寮の寮祭も同時に開催された。後夜祭に芸能人を呼びコンサートを開くのも当時の大学祭では流行した。場所は、キャンパスの前庭が利用されていたが、SJ祭の核となる人が

の先生を招いての講演会や近接の聖



SJ祭が行われていた場所

参集する場がなかった。第17回(1994年)より初めて野外ステージがキャンパスの前庭に設置された。ミス・ソフィア・ジュニアを選ぶコンテスト(通称ミス・コン)や上智短期大学英语会の主催する学長杯争奪英語スピーチコンテストもSJ祭の風景の一つとなった。第28回(2005年)より仮装行列がスタートし、2006年には前夜祭に仮装行列、SJ祭の閉幕をSophiaの文字で飾りキャンパスを照らす火文字が加わった。最近のSJ祭では特にゼミの発表や展示といった学生や本学の研究教育活動の発表・発信の場となっている。



1994年よりミス・コン(写真上)、学長杯争奪英語スピーチコンテスト(写真下)を開催

3. ボランティア活動もSJ祭で

本学は「他者との共生、他者への奉仕」を教育理念に掲げ、コミュニティの中で学生がボランティアとして積極的に活動することを奨励、支援している。本学では周辺地域を対象とした様々なボランティア活動に多くの学生が取り組んでいるが、学校行事にも多くの学生がボランティアとして参加している。同時に課外活動に参加している学生も多数いる。学生が積極的にこれらの活動に取り組むようになったのは、学内に開設された改革検討委員会の提案を教授会が真摯に受けとめ、課外活動が学生にもたらす効果を軽視せず、正課の授業と正課外の活動を授業内の学びと授業外の学びとして有機的に捉え、学生がクラス、コミュニティや社会で活かせる能力、例えば、問題を捉え解決するために考え抜く姿勢やチームで働く力を涵養する機会と捉え評価したことにも他ならない。この方向性を発展させ、地域のボランティア活動と結びつけて展開しているのがサービスラーニング活動で、これらの活動もSJ祭で如何なく発揮される。



4. SJ祭の祭りとしての広がり

多くの短期大学が地域密着型であるのに対して、本学は全国型の短期大学である。しかし、地域に開かれていない訳ではない。SJ祭の充実、本学の活動の多面的な広がり、と教育研究活動の姿とも言える。

■地域への広がり

第26回(2003年)より「地域交流の部屋」の開設は、SJ祭の地域の広がりの可能性の一つとして見る事ができる。更に第28回(2005年)よりSJ祭の前夜祭として仮装行列が始まる。この仮装行列は、2004年の秋から始めたものだが、地元の商店会、保育園や幼稚園をはじめとする地域の教育機関の協力を得て本学のSJ祭実行委員が地域のボランティア活動で学習支援の対象となった外国籍市民の児童を含む、市内の小中学校と幼稚園等の児童と家族を招待し、ハロウィン仮装行列としてキャンパス外の秦野駅周辺の街路および商店街で実施されてきた。2007年度に



2005年より仮装行列が始まる

秦野市と事業提携協定を結んだことで、このイベントは拡大した。2009年にはインフルエンザの流行で仮装行列の開催を中止したが、2010年には仮装行列参加者の交通上の安全を考慮して、SJ祭のイベントとして本学のキャンパス内での開催となった。

■卒業生への広がり

第23回（2000年）より同窓会であるソフィア会の総会並びに銀祝式典が、SJ祭の時期にキャンパスで行われるようになった。本学を巣立ち25年になる卒業生に対し「あなたがたは、世の光、地の塩である」という祝状が贈られる。この式典は、卒業生に現在のキャンパスの姿を見てもらい、在学生との交流の場にしようとする意図から、この時期に行われている。



2000年から卒業後25年を祝って銀祝の式典を挙げる

■後援会への広がり

第26回（2003年）より学生の父母の組織であるソフィア後援会が



学生、教職員、父母の交流の場「お休み処」

「お休み処」を開設した。SJ祭の来場者の便宜を図ってくれるばかりでなく、父母同士、学生と父母と教職員、さらに四谷の関係者との交流の場となっている。

SJ祭は学生の文化発信の場であり、今後も、学生が体験的に地域貢献や地域活動を通じて学んだ成果を、SJ祭の場を借りて発信していくものであり、同時にSJ祭は本学に相応しい地域交流、異世代間交流、そして異文化交流の場になるような文化の醸成を目指している。



SJ祭は、地域・世代・異文化の交流を目指して行われる